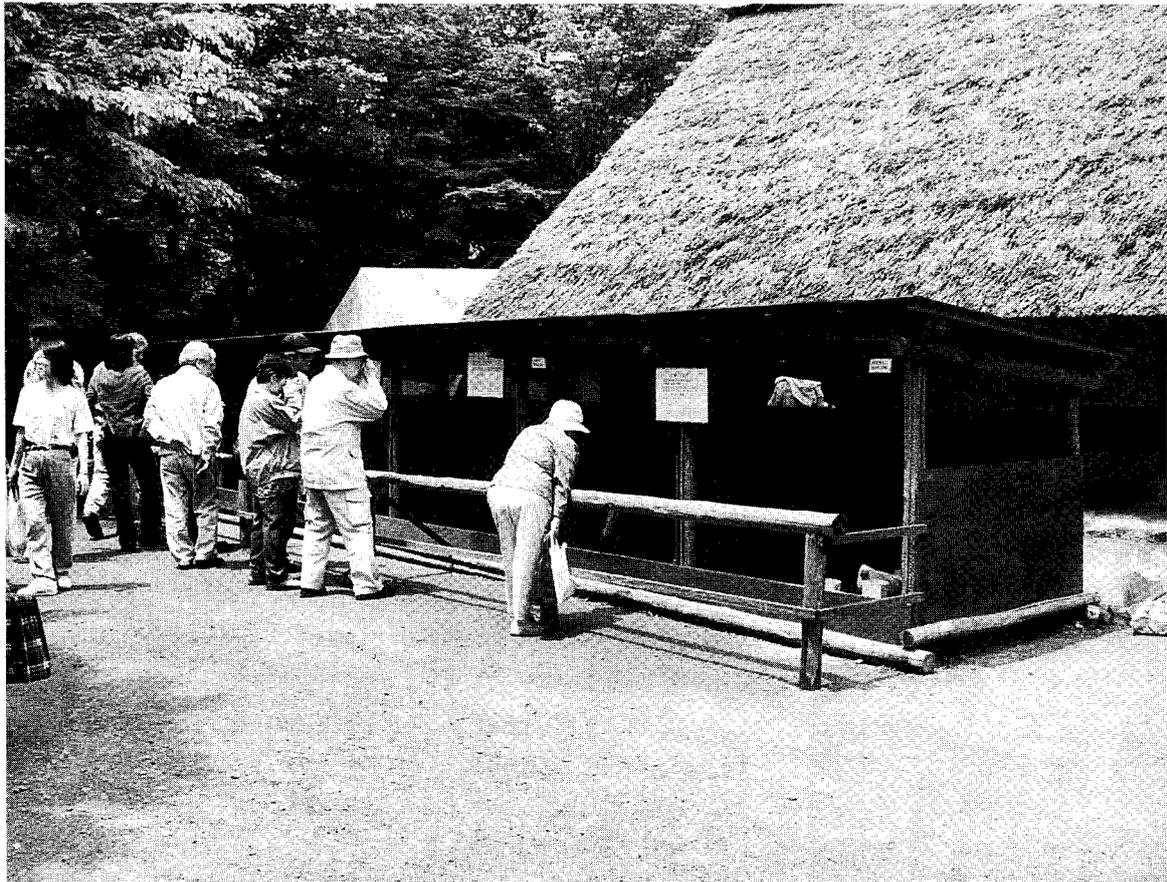


川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 44号

平成12年7月1日

編集・発行 川崎市立日本民家園



特別展示会「日本のにわとり」

5月13日・14日の2日間、特別展示会「日本のにわとり」が開催され、日本で特別天然記念物・天然記念物に指定されている17種の鶏が古民家の庭にやってきました。

あわせて本館でも鶏に関する展示が行われました。

鶏が庭を歩き回る姿は、かつてはどこの民家でも見られたものでした。民家園では、5月13日・14日の二日間、農家で大切に飼育されていた鶏を古民家の庭でご覧いただくという特別展示会「日本のにわとり」を開催し、会期中に約2700人の来園者がありました。

この展示会は、日本の各地で大切に飼育され受け継がれてきた文化財でもある日本の天然記念物の鶏を広く知ってもらうための展示会を計画していた全日本家禽協会と民家園が共催したものです。しかし、園内で生き物を展示するにあたっては、文化財の古民家を保護するとともに、鶏の安全を考慮しながら計画を進めていかななくてはなりません。できれば民家の庭に放し飼いにされた鶏の姿を再現する展示を目指したかったのですが、検討の結果、今回の展示会では農家での鶏の飼育を再現することはできませんでした。しかし、特別天然記念物のオナガドリをはじめ天然記念物に指定された17種類の鶏のすべてを一堂にご覧いただける貴重な展示会とすることができました。

会場は作田家、広瀬家、太田家の庭に仮設



本館展示をご覧になる秋篠宮様

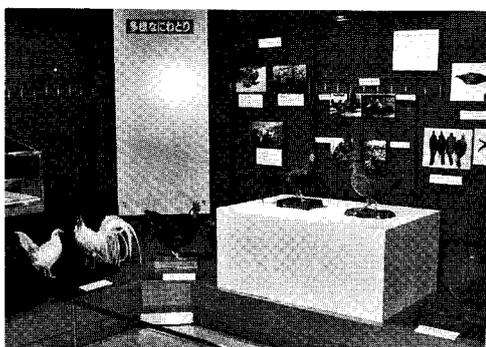
の小屋をつくり特別天然記念物や天然記念物に指定された鶏など約50羽が展示されました。そして、北村家の庭では長鳴鶏の鳴き合わせが実演されました。

また、本館第二展示室では、日本の鶏の原種と考えられている赤色野鶏の剥製や古くから日本で鶏が飼われていたことを示す鶏の埴輪、信仰とも関係し鶏の飼育と密接に発展してきた闘鶏の資料、日本人が鶏と共に暮してきたことを教えてくれる絵巻などの資料が展示されました。

そして、展示作業を行っていた5月12日には、鶏の起源についてご研究されている秋篠宮様がおいでになり、本館の展示や天然記念物の鶏、鳴き合わせ

などをご覧になられました。

今回の展示会は民家園にとっては、大きな展示会であるとともに、本館において企画展を開催するというはじめての機会となりました。本館の第二展示室の民俗展示を一時はずして企画展示を行ったことで、今後の展示への可能性を探ることができました。



本館展示



長鳴鶏の鳴き合わせ

日本の天然記念物の鶏（17種類） 特別天然記念物

おながどり（土佐のオナガドリ）

天然記念物

うずらちゃぼ（鶉矮鶏）

みのひきちゃぼ（蓑曳矮鶏）

じどり（地鶏）

ちゃぼ（矮鶏）

うこっけい（烏骨鶏）

みのひき（蓑曳鶏）

とうてんこう（東天紅鶏）

しょうこく（小国鶏）

ひないどり（比内鶏）

かわちやつこ（河内奴鶏）

こえよし（声良鶏）

しゃも（軍鶏）

さつまどり（薩摩鶏）

とうまる（蜀鶏）

くろがしわ（黒柏鶏）

じとっこ（地頭鶏）

秋川歌舞伎あきる野座

東京都で唯一の農村歌舞伎の伝統を復活させた秋川歌舞伎あきる野座が地元を離れて民家園で公演をおこないました。開催した5月3日は、心配された雨もふらず、桜の花びらの舞う中で「絵本太功記十段目尼ヶ崎閑居の場」が上演され、お客様にも大変喜んでいただきました。

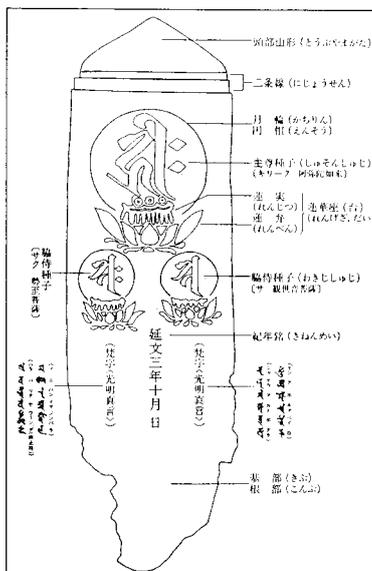


あきる野座は小さな子どもから大学生、そして大人が力を合わせて地域の文化を伝えていく活動をしており、民家園の本物の農村歌舞伎舞台で演じたことは、今後の活動にも生かしてもらえないでしょうか。また、文化財建造物を活用しながら保存し、建造物にかかわる様々な伝統文化や芸能を紹介している民家園にとっても、船越の舞台を活用することができ、今回の公演は、あきる野座と民家園の双方にとって有意義な公演になったと思います。

日本民家園収蔵資料紹介 (1) ～月待供養板碑【旧伊藤家】～

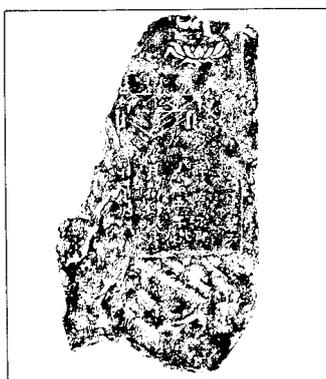
本園では開園以来多くの資料を収集し、現在では約2万点を数えます。一部の資料は、民家園の展示室や古民家で展示され見るすることができますが、それ以外の資料は入園者の方々が見る機会もなく、あまり知られないできました。そこで、日本民家園が収蔵する資料を広く知ってもらうために、いくつか紹介していくことにしました。今回は初回ということで、民家園設立の契機になった旧伊藤家住宅の資料から、「月待供養板碑」を紹介したいと思います。

この板碑は、川崎市麻生区金程にあった旧伊藤家住宅から南に10数mの所にある畑を昭和20年代ごろ、伊藤西蔵氏が耕作中偶然掘り出したものです。板碑(図版1)とは石製の板塔婆の



図版1 板碑模式図

ことで、旧武蔵国の秩父・長瀬地方で多く見られる緑泥片岩を用いることが多いと言えます。板碑は中世を通じて、死者の追善供養や逆修(生前に自分の死後の供養をする)のために作られました。この旧伊藤家の板碑(図版2)もやはり緑泥片岩製で、その形状も武蔵地域に一般的な



図版2 「月待供養板碑」(左:拓本、右:刻文図)

□□ 禅門 袈裟子
 妙□ 禅尼 右馬次郎
 永正五年 辰戌
 奉月待供養
 十一月廿□

ものであったと考えられます。塔身上部を欠損していますが、残存部分から推定すると阿弥陀三尊の種子(梵字)の下に机を刻み、三具足(香炉・花瓶・燭台)を安置している構図が分かります。さらにその下には、人名・年号・「奉月待供養」等が彫られており、月の出を待つ礼拝する月待という民間信仰のために造立されたものと考えられます。川崎市内では935基の板碑が確認されています(『川崎市史』参照)が、この月待供養板碑は非常に少なく、その出土状況から見ても非常に貴重な資料と言えると思います。(学芸員 栗田 一生)

※旧伊藤家の「月待供養板碑」は、ボランティアが囲炉裏に火を入れている床上公開時に一般公開しています。今回は8月23日(水)～9月7日(木)を予定しています(変更もあります)。

催し物のご案内

民俗芸能実演会

9月24日(日)

たいらばやし

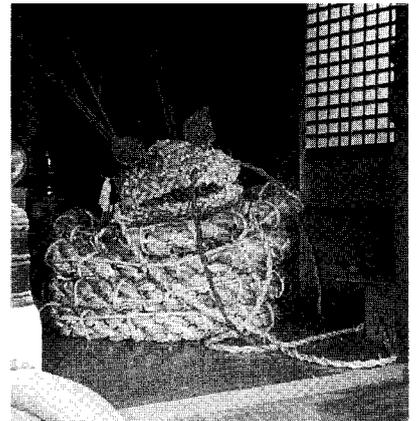
平囃子

民家園の近くの宮前区平に伝わるお囃子で、
娯楽性の高い寸劇的な舞などが演じられます。

じゃもかも

蛇も蚊も(横浜市指定無形民俗文化財)

茅の蛇を担いで家々を練り歩く横浜の生麦で行わ
れている祭りです。



民家園講座「王朝文化と仏教建築」

講師：清水 擴 氏(東京工芸大学教授)

9月 9日(土) 平安時代の仏教と信仰

9月 16日(土) 天台宗の寺院と建築

9月 23日(土) 真言宗の寺院と建築

9月 30日(土) 浄土教の建築と法華経の建築

10月 7日(土) 建築の国風化

時間 13:30～15:30 会場 原家 受講料 3,000円 定員 40人

申込み 往復ハガキで8/28(月)締切必着

(1人1枚、住所・氏名・電話・講座名・何でこの講座を知ったかを記入)

人形浄瑠璃公演

10月1日(日)

「伽羅先代萩 政岡忠義の段」

小田原・下中座(国指定重要無形民俗文化財)

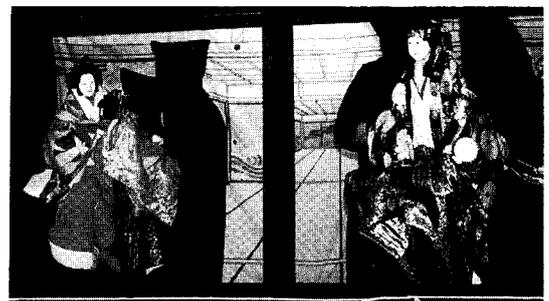
13:30～15:00 工藤家にて

定員 100人(申込み多数の場合は抽選)

申込み:往復ハガキで9/11(月)締切必着

(1枚につき2人まで、観覧者それぞれの住所・氏名・電話・行事名・何で知ったかを記入)

料金:300円(入園料別)



※体験学習講座(わら細工、竹細工、草木染めなど)、その他の催し物については、
「日本民家園催物案内」のパンフレットをご覧ください。